

世田谷区立用賀中学校 学校評価報告書

世田谷区立用賀中学校
学校関係者評価委員会
令和8年2月吉日

学校評価にあたって

学校が、生徒はもとより保護者及び地域の方々から信頼される存在であり続けるためには、学校評価を教育活動の質の向上に向けた改善の契機として、適切に活用していくことが重要である。学校に関わる関係者からの評価や意見等を真摯に受け止め、教職員一人ひとりが主体的に自己評価を行うとともに、多様な視点を学校運営及び教育活動に生かしていくことが求められる。さらに、評価結果を踏まえた改善策を計画的に実施し、学校運営の透明性を高め、保護者や地域と連携した持続的な学校改善につながることが期待される。

上記の趣旨を基に、学校行事等の参観や学校だより、学校評価アンケートなどを踏まえて学校評価報告書を作成した。この報告書を公表するとともに、学校のさらなる発展と信頼性の向上の一助となることを願う。

学校評価アンケート実施について

- 自立（自ら学び、考え、行動できる生徒）
- 敬愛（責任と思いやりのある生徒）
- 精励（健康で、力強く生きる生徒）

教育目標達成のための基本方針と具体的な方策に基づいて「学習について」「生活指導について」「学校行事について」「キャリア教育について」「先生について」「全般について」の主に6項目によるアンケートを作成し、生徒・保護者・地域の皆様に対して実施した。以下はその分析・考察と、学校への提言である。

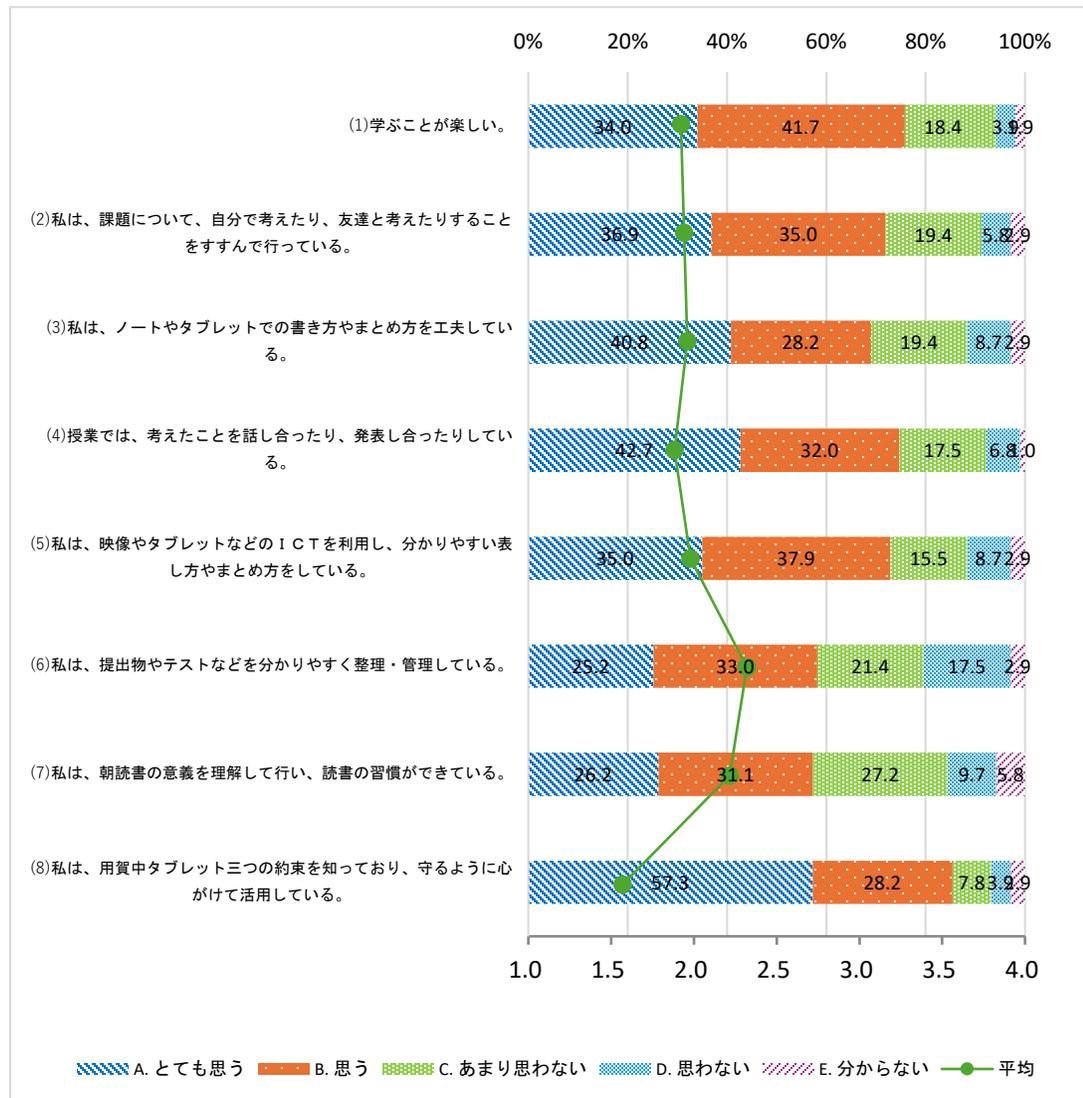
回答数（回答率）

- 1年生：生徒 127（79.4%）
保護者 164（102.5%）
- 2年生：生徒 103（79.2%）
保護者 126（96.9%）
- 3年生：生徒 156（106.1%）
保護者 147（100.0%）
- 地域関係者 38

生徒は回答日時をそろえ、感じるとおり正直に答えるよう、事前指導をしてから回答を行った。その時間に欠席した生徒などいたため、100%回答に届かなかった。回答がない（=どのように感じ、考えているかわからない）という生徒を限りなくゼロにしていくため、次年度以降も全員に回答を求める働きかけが必要である。

保護者へはメールシステムを送ることで、回答数進捗の報告と未回答舎への依頼を繰り返し行った。保護者の協力がとても大きく、生徒1人あたり複数の保護者が回答した方もいた。メールシステムでは未回答者のみへの送信も可能なため、次回以降方法を改善していく。

1A 学習について (生徒)



* 学習については、全般的に肯定的に捉えている生徒が多い。日頃からの学習指導の趣旨が生徒に十分に伝わっており、学習内容の理解が図られている結果であると考えられる。また、「学ぶことの楽しさ」に関する評価も高く、本校の教育活動の基盤が適切に機能していることを示すものと捉えられる。これらは、日常的な教職員の指導と取組の成果であり、今後も評価の一層の向上を目指した継続的な取組が期待される。

* 知識や技能の習得にとどまらず、それらを活用して課題を見だし、考え、判断し、自分の考えを分かりやすく表現する力が、課題解決的な学習や対話的な学びを通して育成されていることが窺える。

* 自分の考えや表現方法を取り入れるために、タブレット端末を適切に活用できている。また、端末使用に関する約束事についても生徒に十分認識されており、ルールを遵守しようとする意識が見られる点は評価できる。

* 一方、提出物の管理や活用については、やや評価が低い傾向にある。生徒が既習事項を振り返り活用する意識が十分に高まっていないことも要因の一つとして考えられる。学習の定着を図るためには、これまでの学習記録を活用することが有効であることから、今後は指導計画の策定においても、こうした点を意識した工夫が求められる。

* 学ぶことへの楽しさ、課題について、タブレットの使用について、2割弱の生徒がやや否定的な評価を示している。課題学習等については、課題の設定や解決への導き方など、教員の支援の方法なども更に研究を深めながら、学習の達成感や充実感を持たせることができるよう努めてほしい。

1B 学習指導について（保護者）



*保護者においても、本校の教育活動の中で、**思考力・判断力・表現力**といった学力の要素の重要性が認識されており、子どもが自ら意見を持ち、情報を分析し、表現するなど、**主体的に発信する力を育成する指導が行われていることについて、肯定的に評価されていることが窺える。**

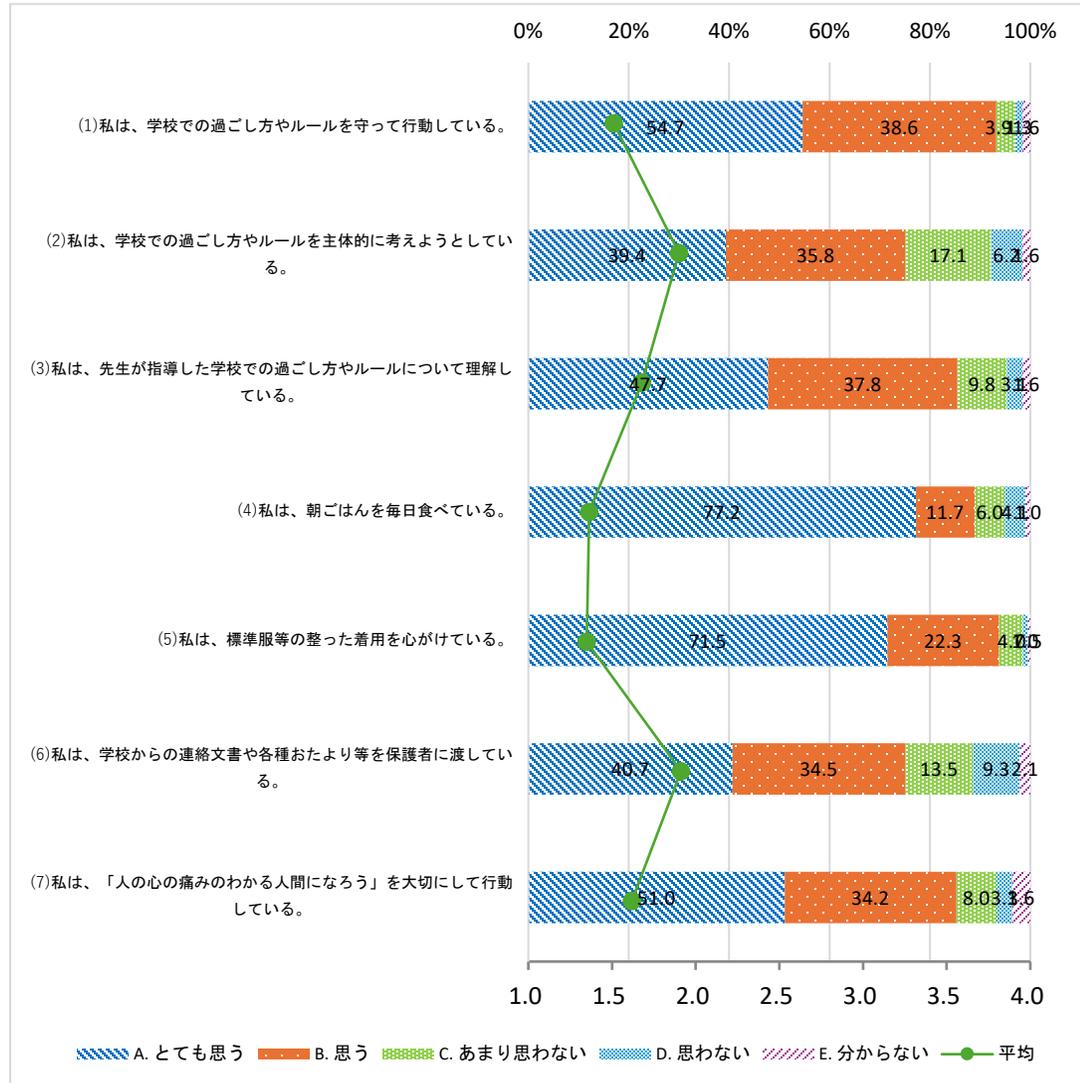
***タブレット端末についても、教育活動の中で積極的かつ適切に活用されている点が評価されている。**

*学校の教育活動について、生徒が自らの言葉や表現を用いて発信できる課題解決型の学習機会を、教科の学習をはじめ、学校行事等を含めた学校教育活動全体を通して、今後も継続的に設定していくことが望まれる。

*学習の評価については、生徒・保護者に対して一定の評価基準を明示し、客観性・透明性のある評価が行われるよう、引き続き取組の充実が求められる。

*各項目において、**「わからない」と回答した割合がやや高い傾向が見られる。**学習活動については、学校だよりや保護者会、ホームページ等を通じて、より一層**情報発信を行う必要**があると考えられる

2A 生活指導について（生徒）



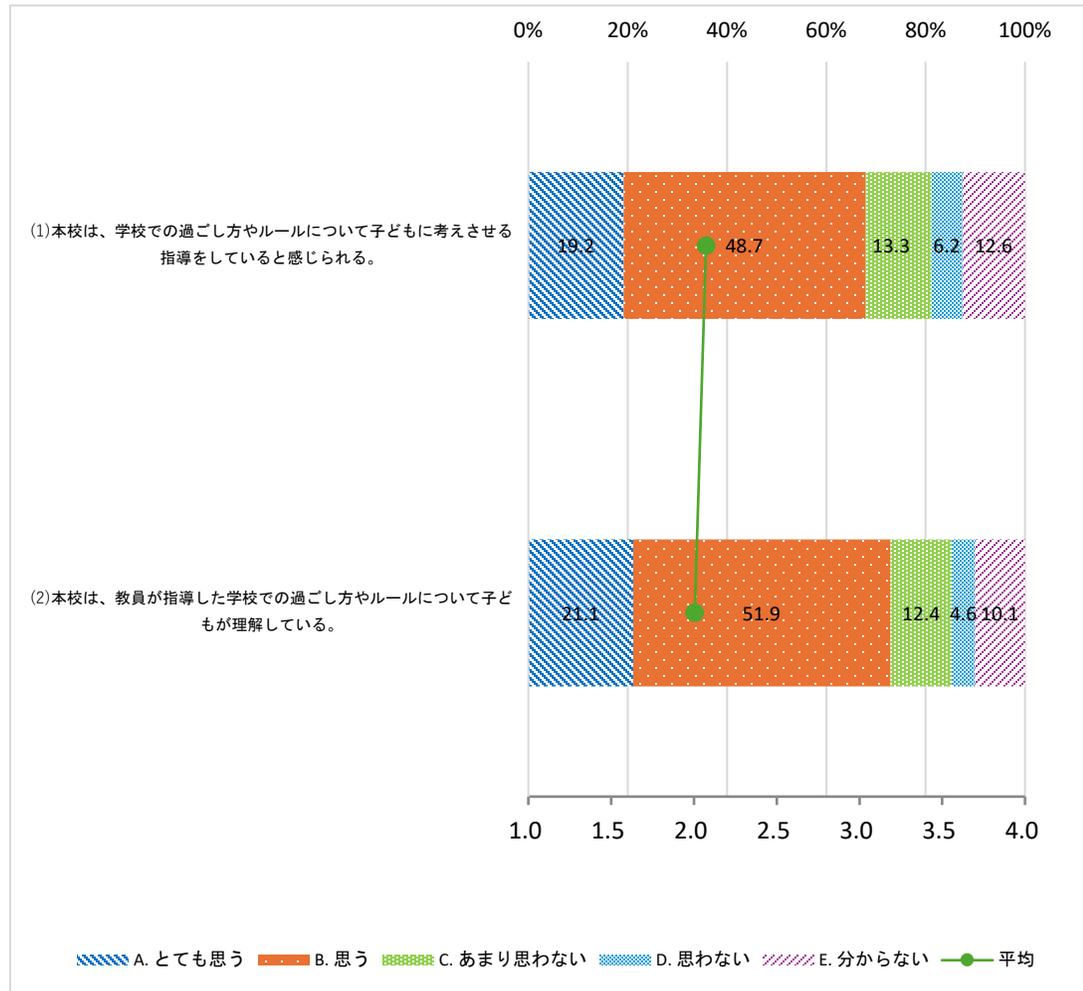
*生徒は、学校の規則を概ね遵守し、**落ち着いた学校生活を送っている**様子が窺える。

*朝食を摂っている生徒の割合は概ね9割と高く、家庭における**保護者の養育や生活習慣への意識が十分に**行き届いていることを示すものと考えられる。

*学校が一方的にルールを強制するのではなく、生徒自身が**主体的に学校のきまりについて考えようとする姿勢**も見られ、学校生活全体に対する肯定的な理解が形成されているものと捉えられる。今後も、生徒・保護者・地域・教職員が相互に連携しながら、生徒の生活が安定的に営まれるよう、継続した取組が期待される。

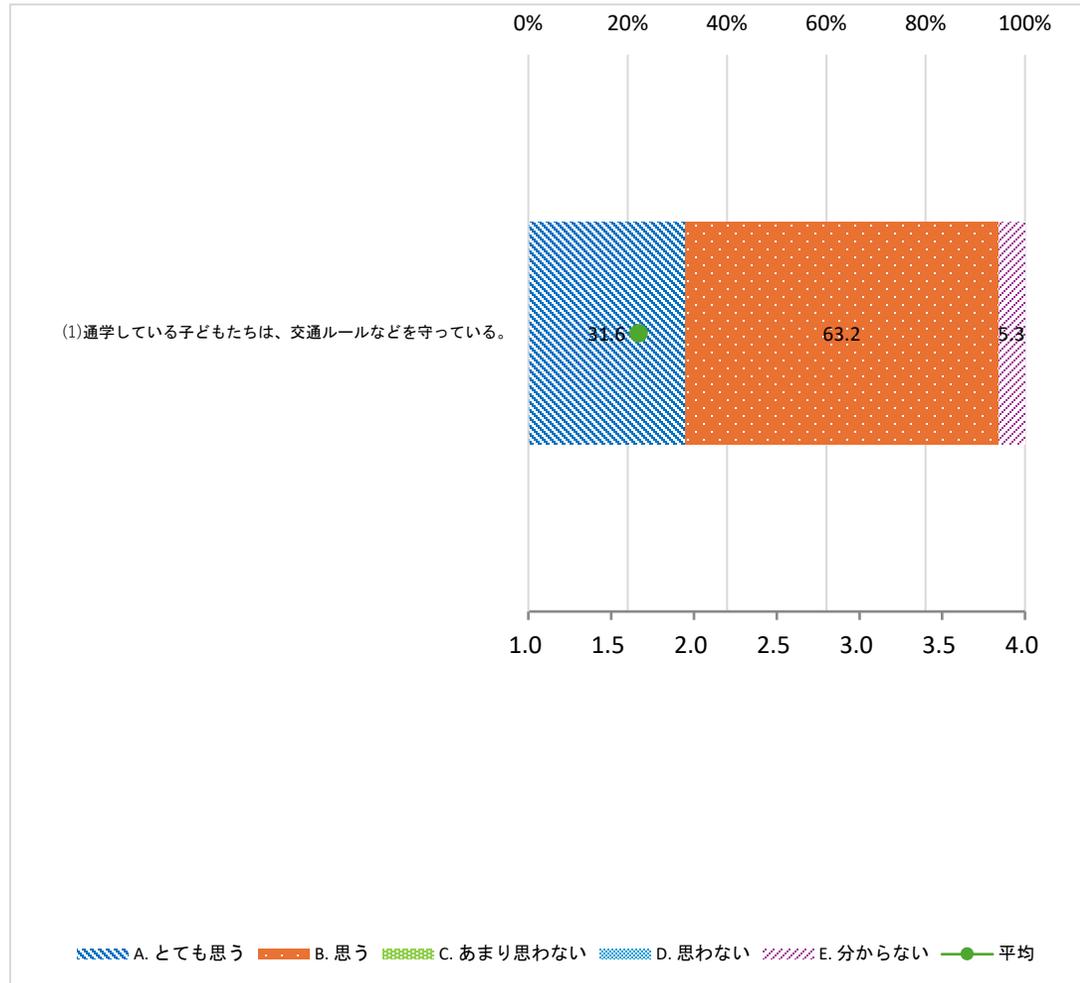
*具体的には、「学校のきまりを考える委員会」等の取組が実施されており、**教職員と生徒が協議する場が設けられている**。さらに、地域の見守りのもとで意見交換を行い、合意形成を図る取組が、生徒の規範意識の醸成や学校生活の安定につながっていると考えられる。

2B 生活指導について（保護者）



- * 保護者においても、学校での過ごし方について、子どもに考えさせる指導をしていると感じられる。一方で、生徒の生活についても、学校での過ごし方について、子どもに考えさせる指導をしていると感じられる。
- * 一方、生徒の生活についても、学校での過ごし方について、子どもに考えさせる指導をしていると感じられる。一方で、生徒の生活についても、学校での過ごし方について、子どもに考えさせる指導をしていると感じられる。
- * 今後、生徒の生活についても、学校での過ごし方について、子どもに考えさせる指導をしていると感じられる。一方で、生徒の生活についても、学校での過ごし方について、子どもに考えさせる指導をしていると感じられる。

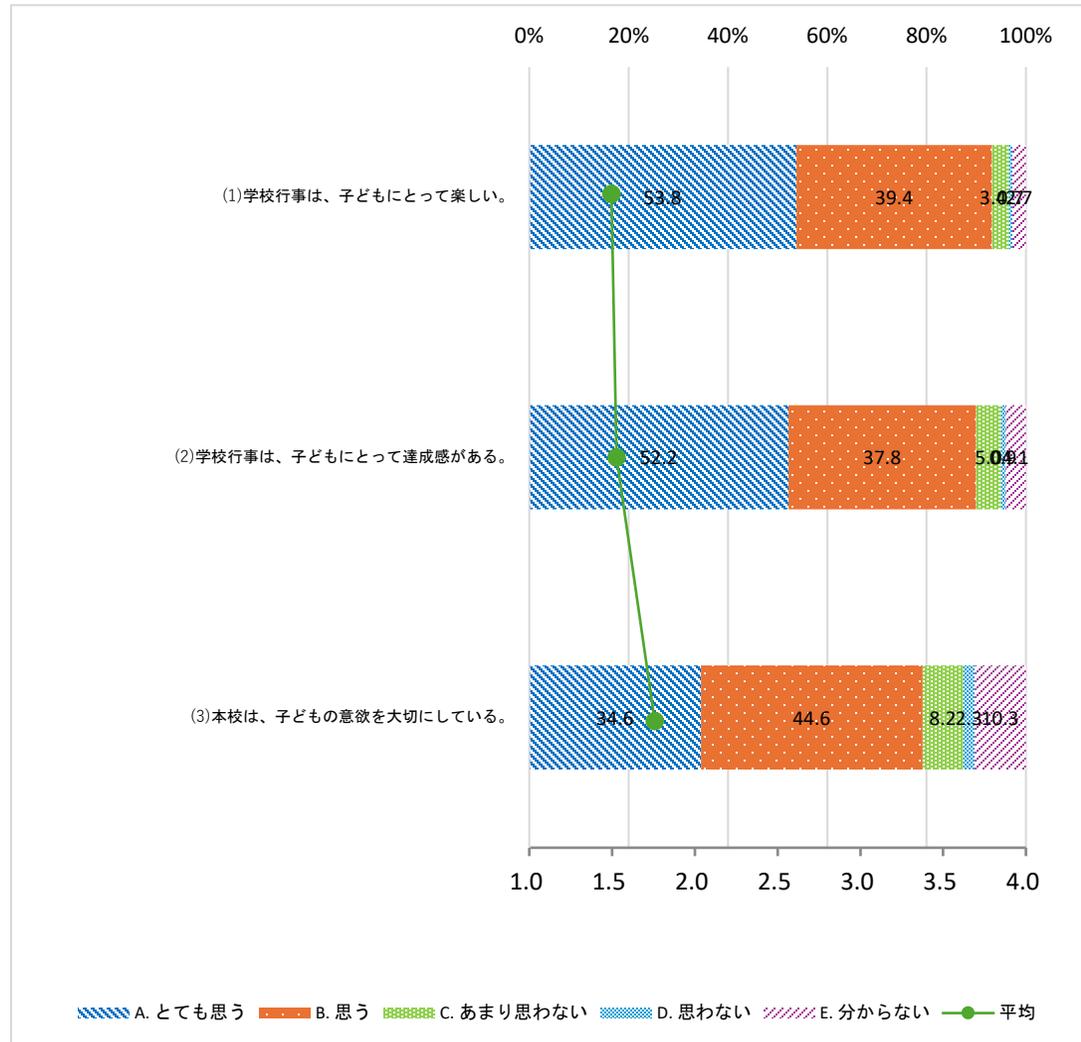
2C 生活指導について（地域）



* 地域の方を対象に、生徒の交通ルールの遵守状況についてアンケートを実施したところ、概ね生徒は地域においても社会的なルールを守り、適切に生活しているとの評価が得られた。地域の中においても、社会の一員としての自覚を持って行動している様子が窺える。

* 今後は、こうした地域からの評価を生徒にも伝え、社会の中で一学校の生徒として、また一人の市民としてどのように行動すべきかについて考える機会を設けることも有効であると考えられる。

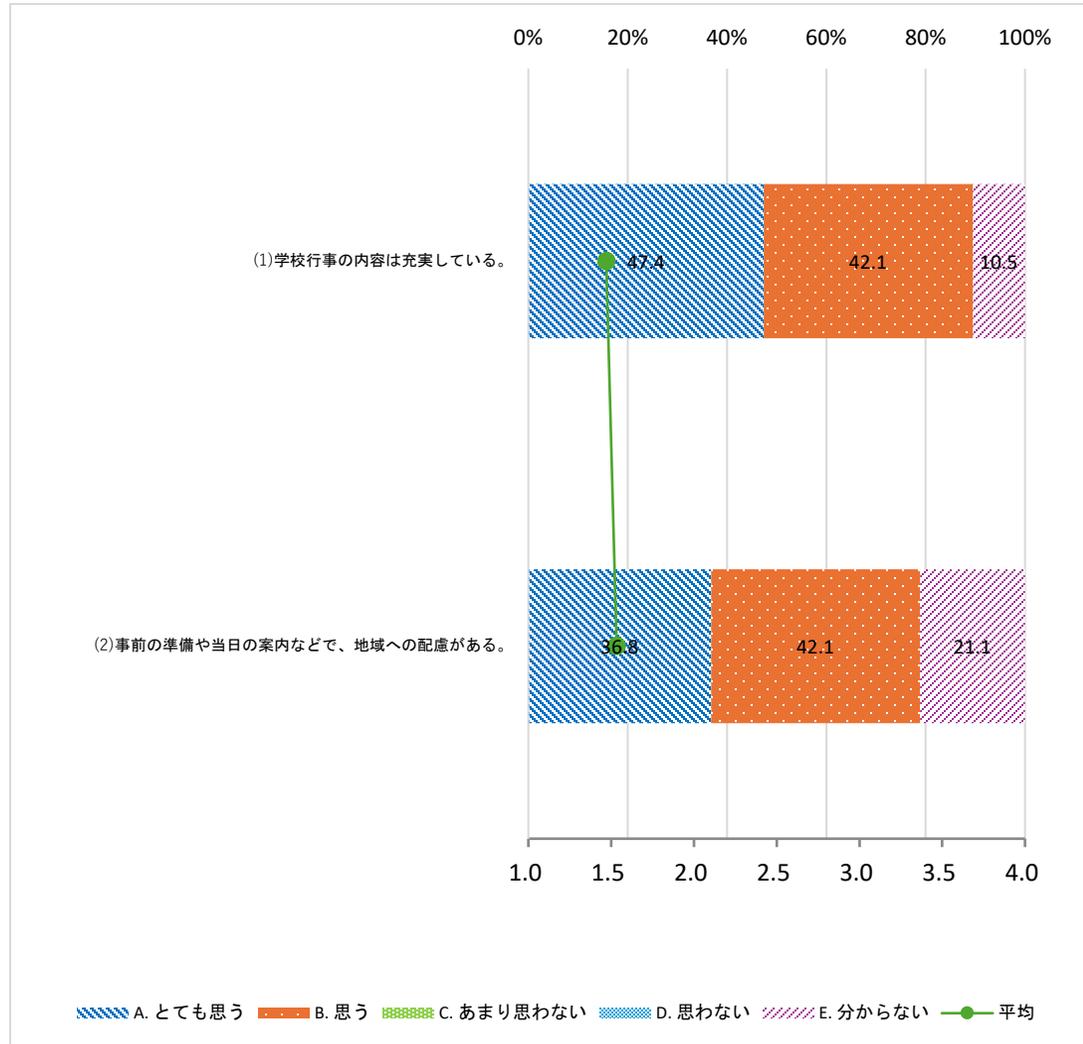
3 B 学校行事（保護者）



* 保護者においても、学校行事に対する理解が進んでおり、子どもの充足感が得られていることから、**全般的に高い評価**が示されている。

* 今後も現状を踏まえつつ、生徒の意欲を高め、生徒が主体的に参画できる充実した学校行事となるよう、継続した取組が期待される。

3C 学校行事（地域）



* 実寄場もめ一つ
 * まつと判断
 * 今後は、学校行事の充実を図る。

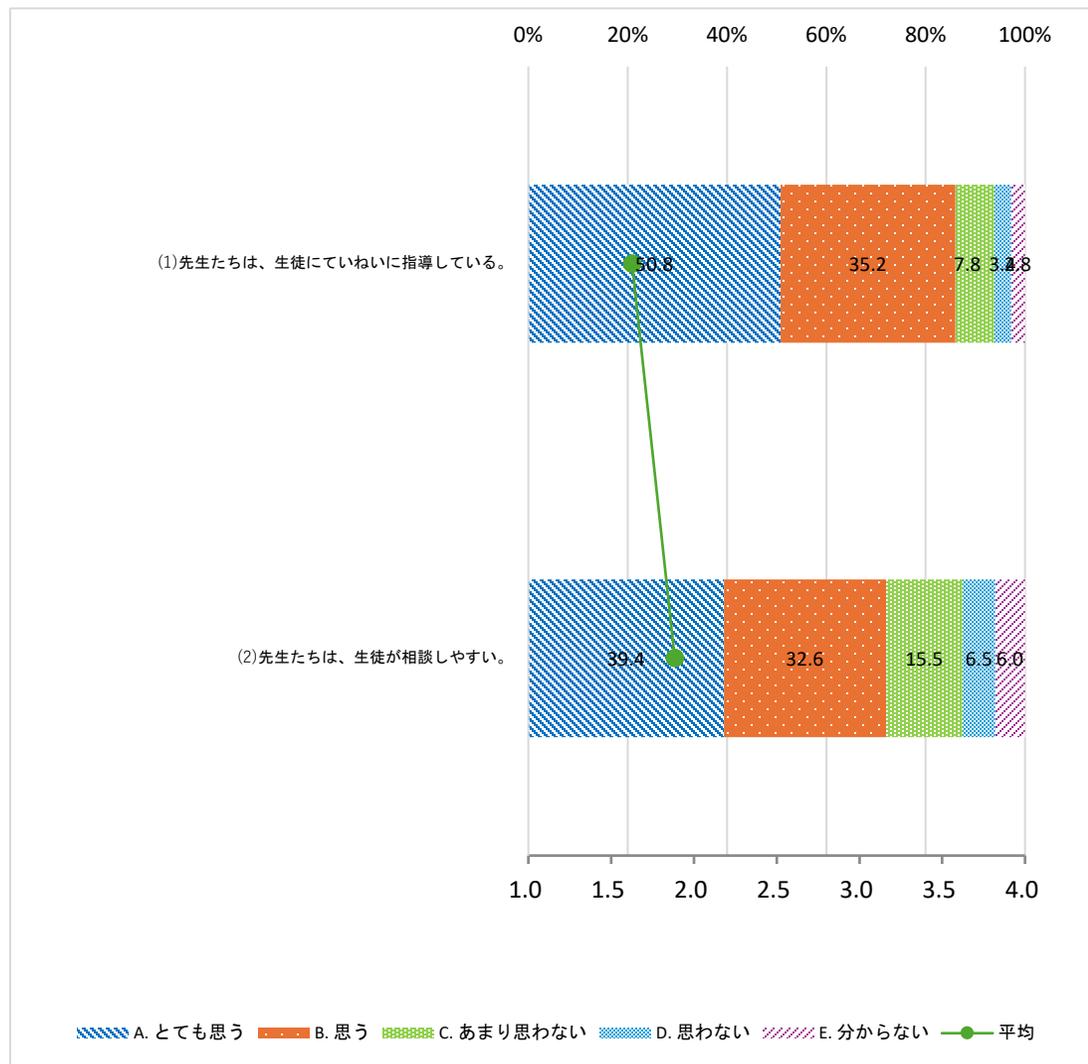
充がのら組の
 が価びかり果
 事評学域取成
 行いを地にの
 校高事が動的
 学て行徒体活
 も、い校生主育
 らに。け動、え
 かとる付活は捉
 々こい置るとと
 方るて位れこる
 のいれてさるあ
 域てらし価いで
 地しせと評てつ

信発てい。
 情報わいてい。
 の行っ
 域切とな
 地適果
 校概る結
 学もでき

携将て、さ
 連、しう、期
 とりとよ
 徒図員るが
 生を一き
 が実ので構
 々充会がの
 方の社と制
 域の事域こ体
 地校たた協働

後がわ割一層
 今な役りる。

5 A 先生について (生徒)



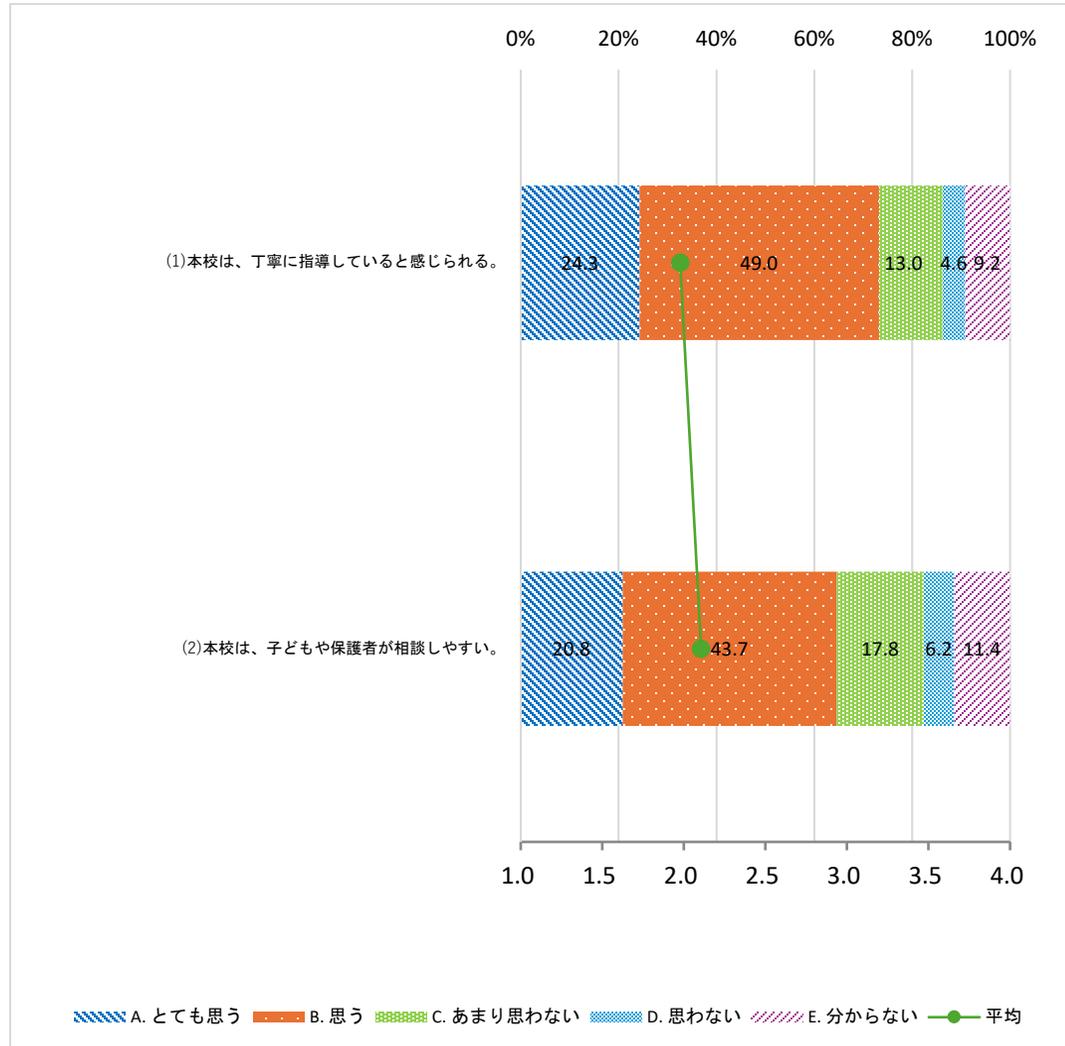
* 生徒は、教員の指導に対して概ね満足感を有している。教員の指導にたいして、概ね満足感を有している。教員の指導にたいして、概ね満足感を有している。教員の指導にたいして、概ね満足感を有している。

* 一方で、生徒が教員に相談しやすい環境にあり、この傾向は例年同様に見られる。一方で、生徒が教員に相談しやすい環境にあり、この傾向は例年同様に見られる。一方で、生徒が教員に相談しやすい環境にあり、この傾向は例年同様に見られる。

* 悩みを抱え、相談したいという生徒は、教員に相談しづらいと感じている。悩みを抱え、相談したいという生徒は、教員に相談しづらいと感じている。悩みを抱え、相談したいという生徒は、教員に相談しづらいと感じている。

* 今後の進歩を促すため、教員が積極的に生徒とコミュニケーションを図ることが求められる。今後の進歩を促すため、教員が積極的に生徒とコミュニケーションを図ることが求められる。今後の進歩を促すため、教員が積極的に生徒とコミュニケーションを図ることが求められる。

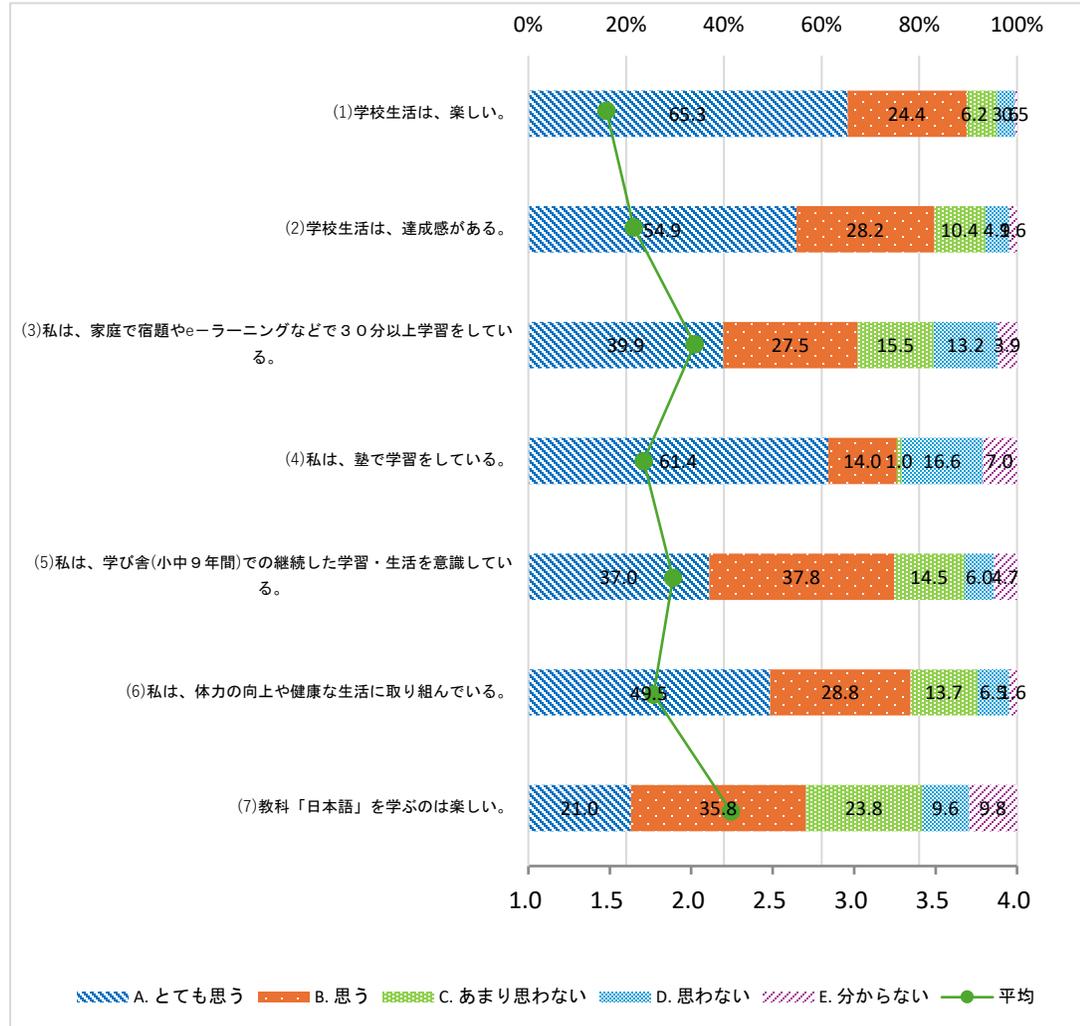
5 B 教職員について（保護者）



* 保護者からの教職員に対する評価については、他の項目と比較すると、やや低い傾向が見られる。肯定的な評価はおおむね6~7割程度である一方、否定的な評価も一定数見られる。また、「分からない」と回答した保護者の割合が1割程度多い点も、この項目の特徴として挙げられる。

* 一方で、生徒からの評価は保護者の評価と比較して高い結果となっている。このことから、保護者に対して教職員の指導や教育活動への理解を一層深めてもらうため、教科指導や教科外活動の内容について、学校ホームページ等を活用した情報発信や、保護者会において生徒とともに取り組む教育活動の様子を、動画や写真等を用いて紹介するなど、より分かりやすい情報提供の工夫が求められる。

6A 全般について (生徒)



* 学校生活に達成感があり、楽しいと感じている生徒が多いことが評価結果から読み取れる。これらは、学校生活が概ね安定していることを示すものと捉えられる。

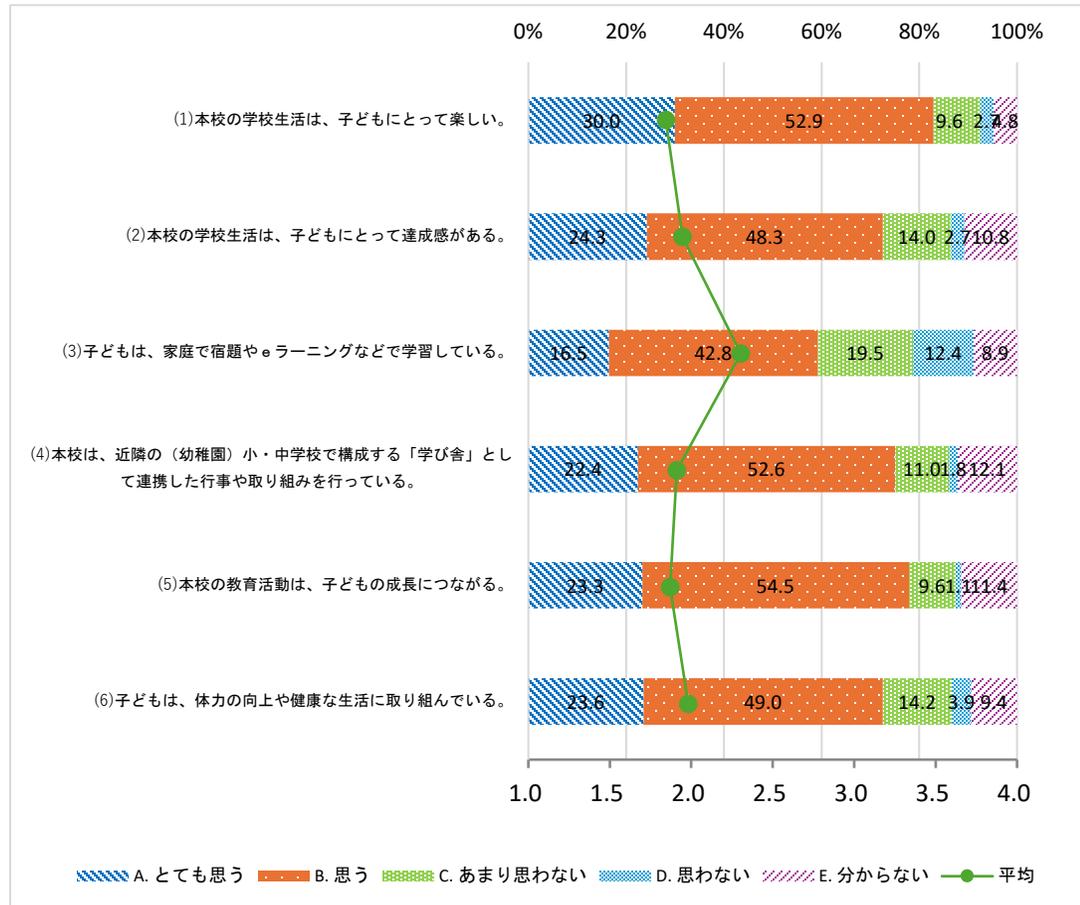
* 家庭での学習時間と比較して、塾での学習に依存する傾向が見られることも示唆される。

* 塾への通塾の有無によって学習機会に差が生じ、学力格差につながらないように、学校としての学習支援の充実を図るとともに、必要に応じて行政等とも連携しながら、学習上の格差の是正に向けた取組を進めていくことが求められる。

* 学び舎における継続的な学習については、約8割が理解しているという結果である。これは、小中連携が一定程度進んでいることを示すものと評価できる。今後も、児童生徒を長期的な視点で見守り、育てていくという方針を継続していくことが期待される。

* 教科「日本語」については、生徒にとって趣旨が十分に理解されにくく、負担感につながっている可能性が示唆される。他校における状況も踏まえつつ、生徒のみならず教員の負担が過度とならないよう、実施方法や取扱いについて慎重に検討していくことが望まれる。

6B 全般について（保護者）

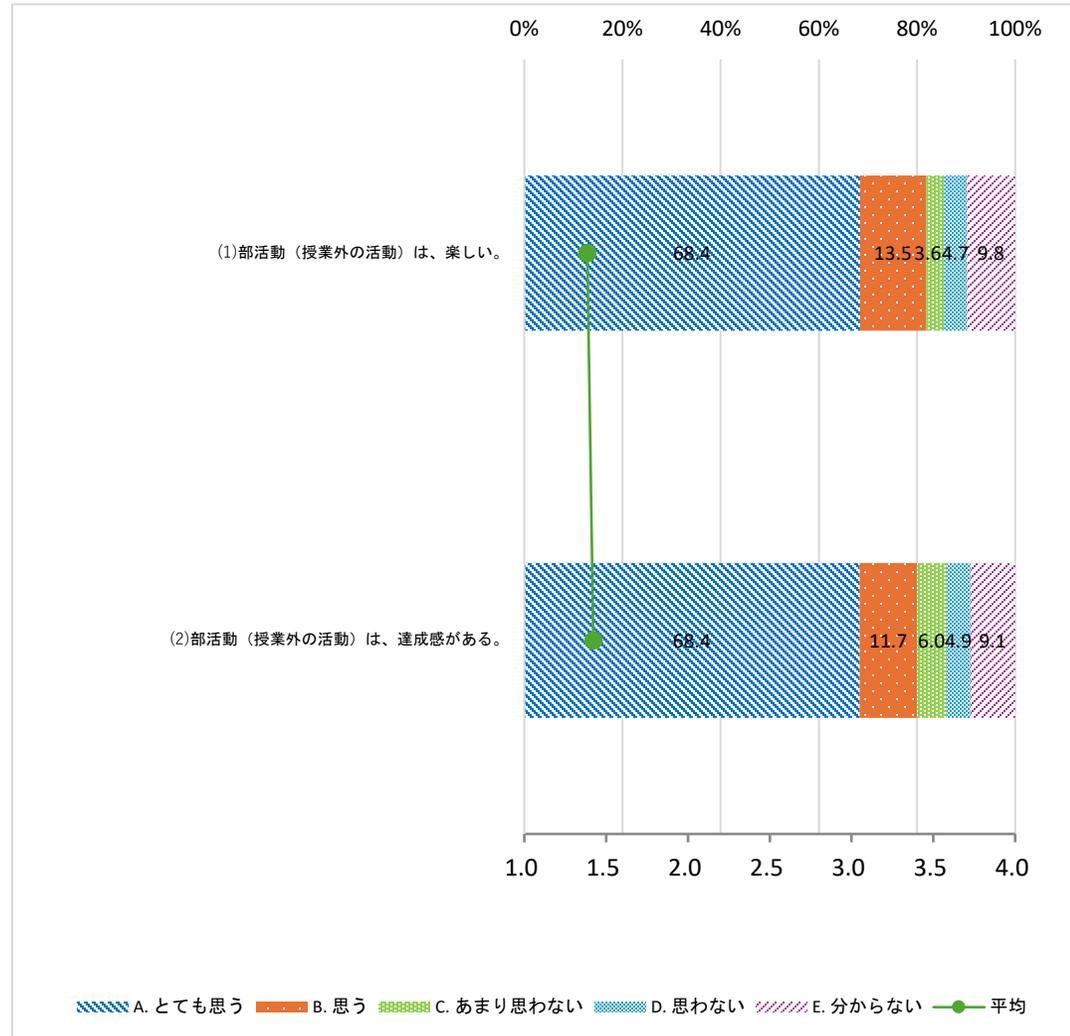


* 子どもの学校生活が楽しいと感じている保護者の割合が8割を超えており、学校生活全般に対して高い評価が得られている点は評価できる。

* 一方で、家庭での学習時間が十分に確保されていないことについては、課題として捉えられる。生徒の評価では、塾に通っているとの回答も多く、学習を塾に依存している状況も考えられることから、通塾の有無によって学習機会の差が生じないように、補習学習等の提供について検討していく必要がある。

* 体力の向上や健康的な生活の定着については、学校の授業や行事、部活動に加え、用賀コミュニティクラブとの連携など、地域全体で取り組む体制の充実が期待される。

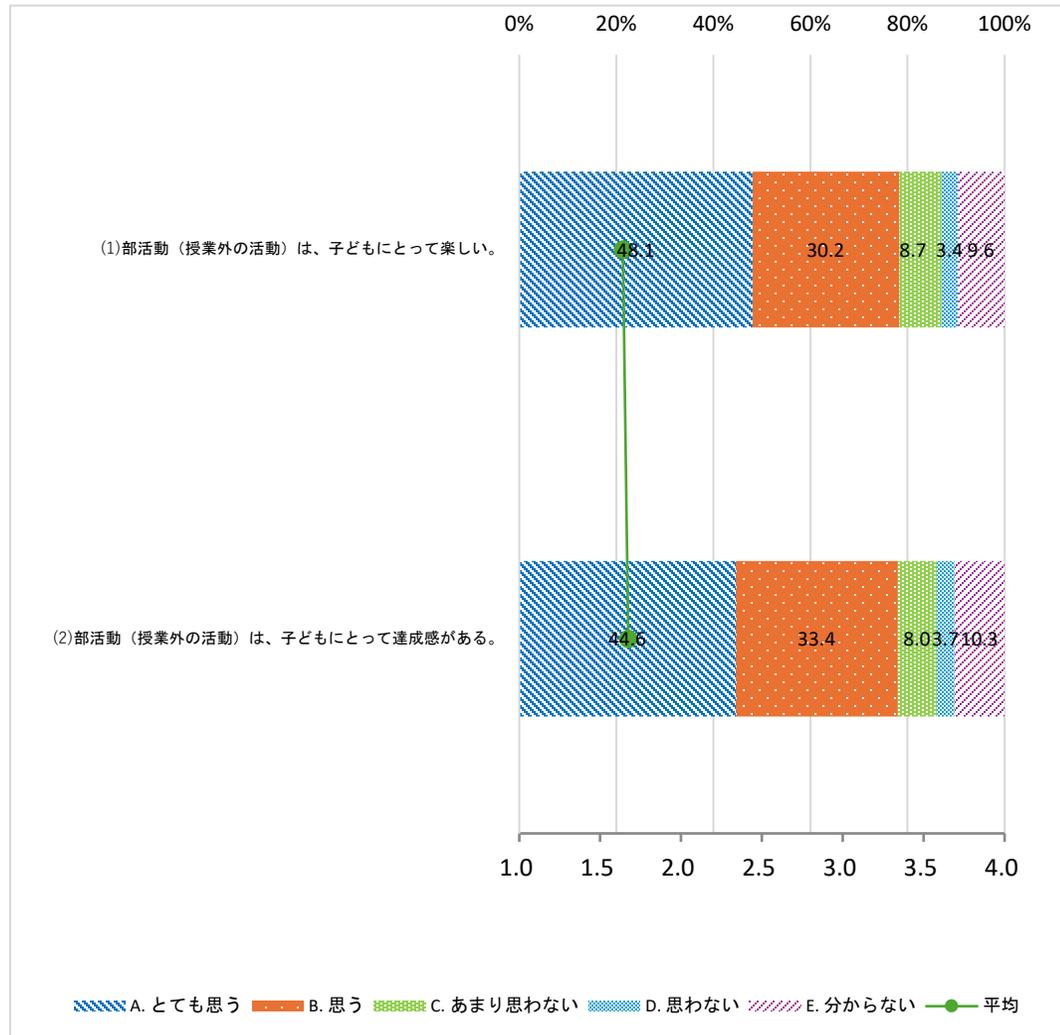
7A 部活動について（生徒）



* 部活動については、楽しいと感じ、達成感を得ていると回答した生徒が約8割に上り、概ね高い満足度を得られていると評価できる。

* 部活動の地域移行が進む中においては、学校と地域の指導者が連携を図りながら、生徒の実態を適切に把握し、それに基づいた指導計画を策定していくことが求められる。

7B 部活動について（保護者）

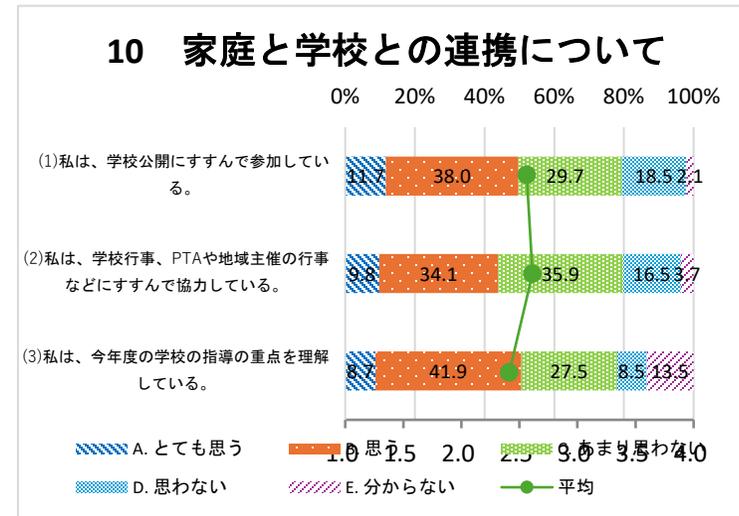
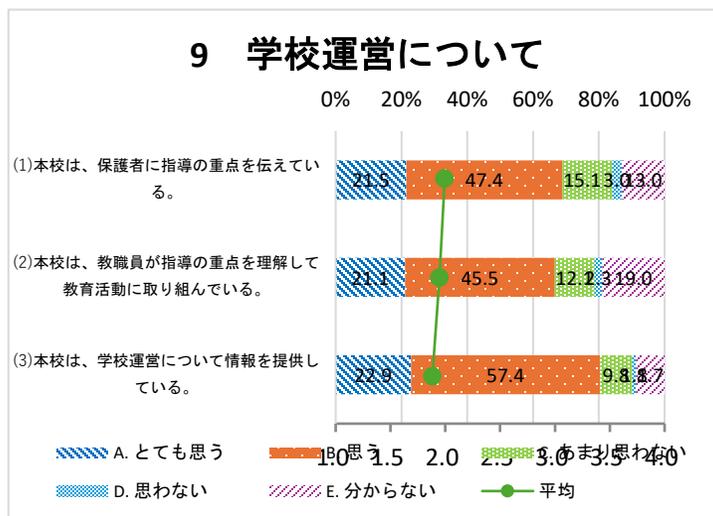
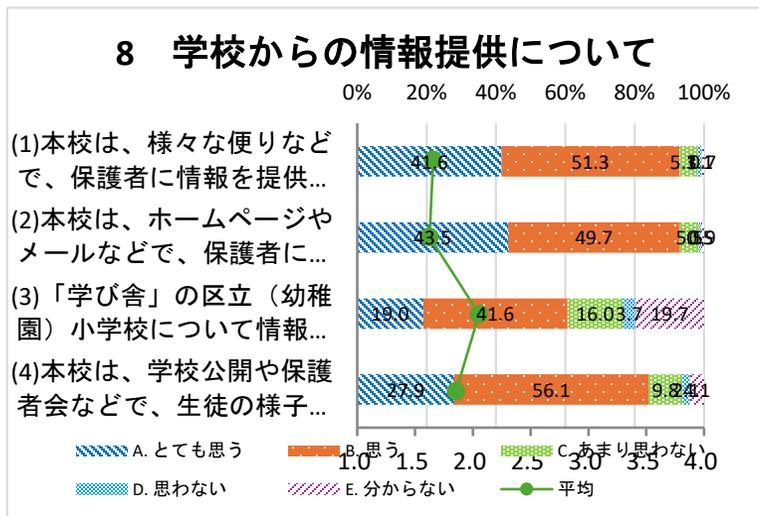


* 部活動については、保護者からも、子どもが楽しさや達成感を感じながら活動できているとの評価が約8割得られており、概ね高い評価が示されている。

* 部活動においては、外部指導者の活用や地域との連携が進む中で、学校・保護者・学校外の指導者が相互に協力しながら、円滑な運営を図っていくことが重要である。

* 一方で、教員の負担感が課題として指摘されている面もあるが、部活動は生徒と教員がともに達成感を共有できる場であり、教員にとってもやりがいを感じられる教育活動の一つである。今後は、各部活動の実情に応じながら、指導体制や役割分担の在り方について、継続的に検討していくことが求められる。

8 その他保護者対象の項目－1

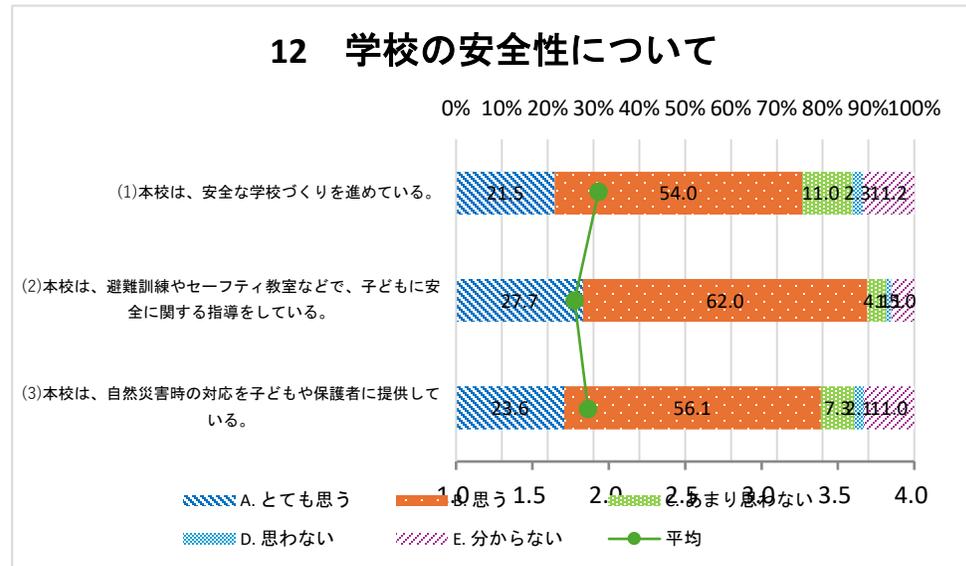
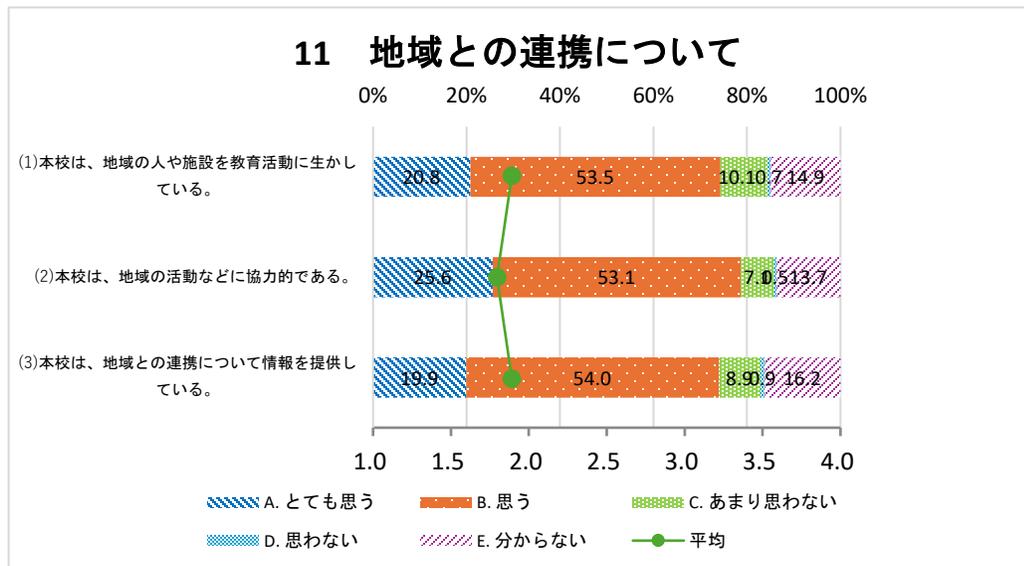


* 「学校からの情報提供」については、概ね適切に行われているとの評価が得られている。一方で、「学び舎」に関する小学校段階の情報提供が不足しているとの結果も見られる。小中連携による9年間の教育の趣旨について、改めて理解が深まるよう、学校として情報発信の方法を工夫し、保護者に対してより丁寧な説明を行っていくことが求められる。

* 「学校運営」については、学校の重点目標が十分に伝わっていない部分があることが示唆される。学校ホームページ等での情報発信は行われているものの、保護者会等の機会も活用し、学校の指導目標やその意図について、より分かりやすく伝えていく必要がある。特に、抽象的になりやすい目標については、具体的にどのような教育活動の場面で、どのように反映されているのかを示していくことが重要である。

* 「家庭と学校の連携」についても、他の項目と比較すると、やや低い評価結果となっている。共働き家庭等の事情により、公開行事や地域主催の行事に参加しにくい場合も考えられることから、動画配信や録画視聴の活用など、保護者が情報にアクセスしやすい方法について、今後検討していくことが望まれる。

8 その他保護者対象の項目－2

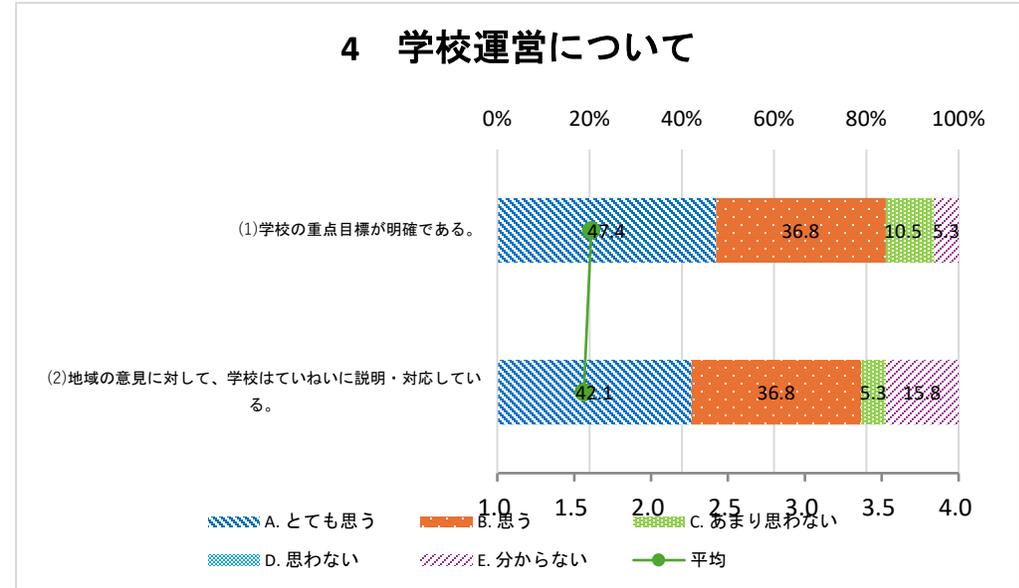
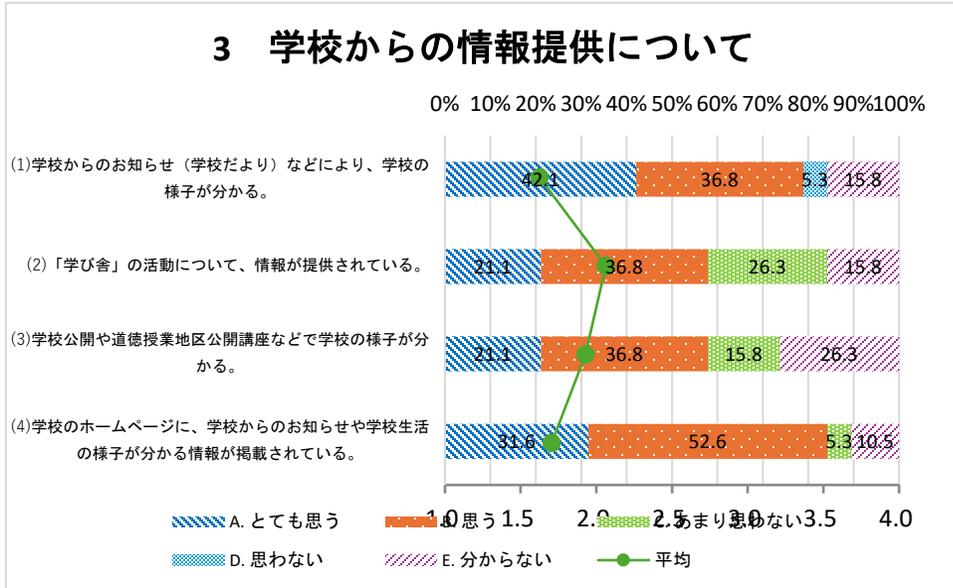


* 「地域連携」については、肯定的な評価が概ね8割に達している。学校が主体となりつつ、地域の協力や信頼関係のもとで学校運営が行われていることが評価されているものと捉えられる。

* 「学校の安全性」についても、肯定的な評価は概ね8割を占めているが、一方で、安全な学校づくりの観点から、やや否定的な評価も見られる。生徒が安心して学べる環境を整えるため、不審者対応や登下校時の見守りについて、近隣校との連携を図るとともに、警察との協力や、地域における保護者同士の見守り体制の充実などを検討していく必要がある。

* また、自然災害への対応も含め、学校が中心となりながら、地域全体で安全なまちづくりや見守りの体制を構築していくことが重要であり、今後も地域と連携した継続的な取組が期待される。

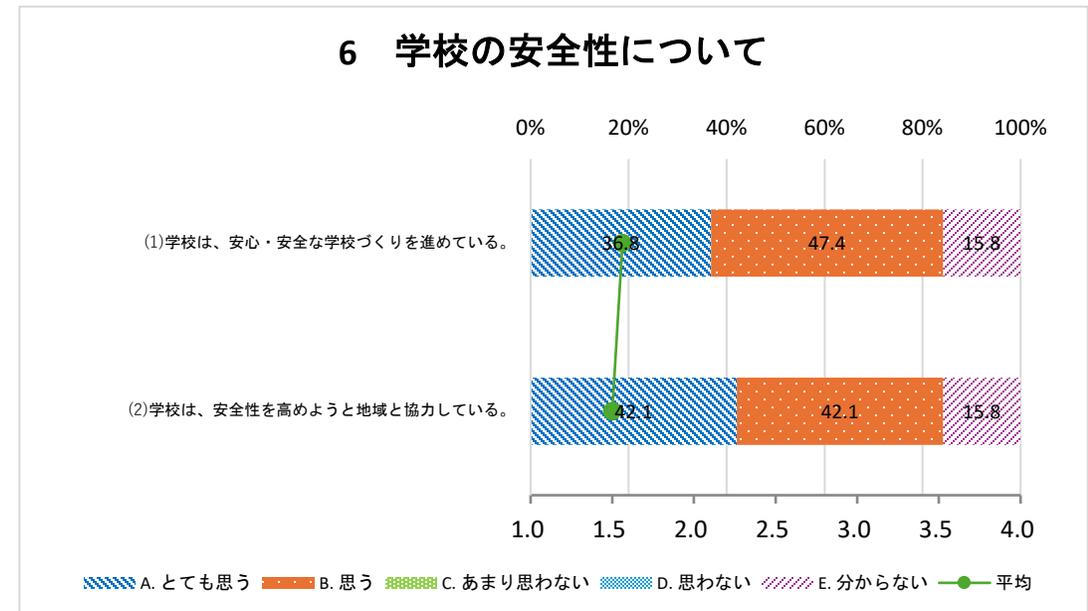
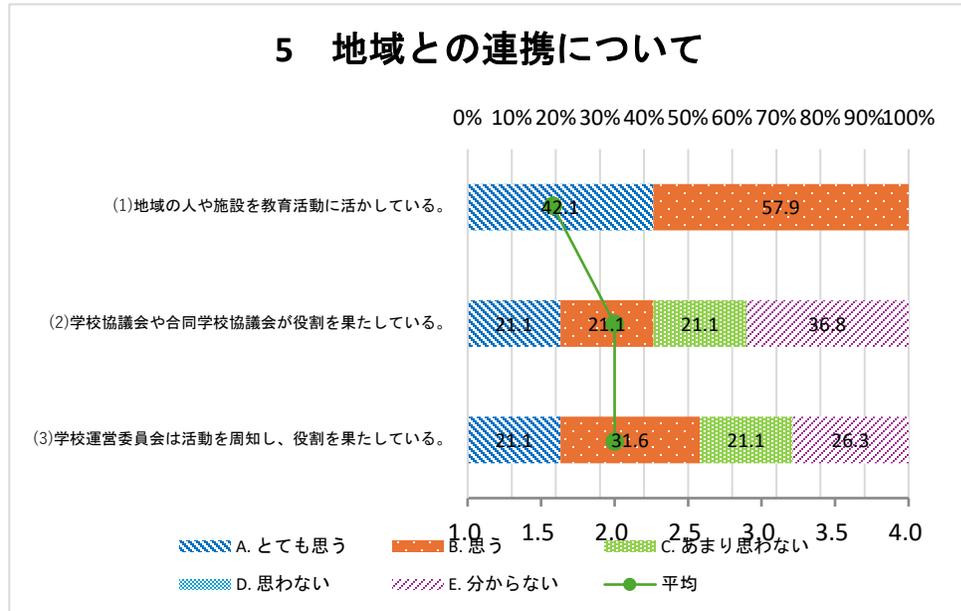
9 その他地域の方の評価項目－1



* 「学校からの情報提供」については、学校の教育活動に関する情報は、概ね地域へ適切に発信されていると評価できる。一方で、特に「学び舎」の活動については、その趣旨を含め、地域連携学校としての一貫教育の取組内容を、より丁寧に説明し、理解を深めていく必要があると考えられる。

* また、学校の公開講座等については、「情報が分からない」と回答した割合が比較的多い結果となっている。学校ホームページでの発信に加え、地域の商店等への掲示が可能な場合には、ポスター等を活用するなど、情報が地域の方々に届きやすい方法について、今後検討していくことが望まれる。

9 その他地域の方の評価項目－2



* 「地域との連携」については、「学校運営委員会」等の活動の趣旨が十分に理解されていないことが示唆される。委員会が担う役割や、学校運営をどのように支えているのかについて、地域に対して分かりやすく丁寧に説明していくことが求められる。

* 「学校の安全性」については、保護者アンケートと比較して地域からの評価が高い結果となっている。学校が災害時の防災拠点となることから、地域の関心も高いことが考えられる。今後は、地域と連携しながら、安全性に関する取組や防災体制・訓練等の状況について、適時情報発信を行っていくことが重要である。

10 終わりに

例年同様、用賀中学校における学校評価は、肯定的な評価が多数を占めており、学校運営が生徒・保護者・地域からの信頼のもとで行われていることが確認できる結果となっている。

今年度は評価項目の変更により経年比較は行えないものの、「学校が楽しい」と感じているかといった継続的な評価項目においても高い数値が示されており、生徒が充足した学校生活を送れていることは、本校の教育活動の成果として大いに評価できる点である。

こうした結果は、教職員の日頃の指導と取組はもとより、保護者や地域の方々による温かな支援と協力の積み重ねによるものであると考えられる。

本報告書においては、さらなる改善に向けた課題や提案についても一部示したが、何よりも「学校が楽しい」と生徒自身が実感できる学校づくりを今後も大切にしながら、教育活動の一層の充実を図っていくことが求められる。以上をもって、本校の学校評価報告書の総括とする。